



趣旨説明

日中金融問題ワークショップ

—日中に共通する金融政策、通貨膨張政策の課題—

高橋五郎¹

趣旨説明

この研究テーマは、日本と中国に共通する金融問題ということでありませうけれども、特に中国と日本において、いろいろな金融をめぐる新しい動きがあります。中には共通する問題もありますし、日中関係の経済的つながりがますます深くなっていくにしたがって、金融面でも新しい共通項が見出せるような時代になってきたと思います。

これまであまり金融問題について日中で研究するということはなかったわけですが、今日は金融問題に焦点を当てて、中国経済問題の現状について議論していきたいと思っております。

そういうことで北京大学の章政先生、中国人民大学の瞿強先生、日本からは、エコノミストの田代秀敏先生をお招きしまして、私を加えて、議論が深められればと思っております。

章先生は、昨年6月にもお越しいただきました。章先生は、金融分野においても専門家で、中国でさまざまな要職についておられ、今回の研究会に適任だと思っておりました。そして、章先生にどなたかお一方を紹介いただけないかのご依頼した結果、今回、中国人民大学教授で、中国においても著名な瞿先生をお招きすることとなりました。大変ありがたいと思っております。今日お目にかかるのは

初めてですが、中国人民大学と本学大学院中国研究科とのあいだでデュアルディグリー制度を一緒に行っております。そういうこともあって、中国人民大学は私たちにとっては交流関係の深い大学でもあります。今日はまたこういう機会にますます交流を深める機会になれば、大変うれしく思います。

田代先生は、中国経済金融問題の専門家でありまして、日本では数少ない、中国金融問題の専門家で、色々な研究会等を主催しておりますし、日本の著名な雑誌等にも常に論説を発表なさり、あるいはさまざまな形でご発言をなさっている方でいらっしゃるまして、今日のテーマにはまったく相応しいそういう方でいらっしゃいます。今日これを機会に、先生方が相互の交流をますます強めていただければ幸いです。

このご3名の方にお集まりいただきまして、この日中に共通する金融政策、特に通貨の膨張政策について意見交換をさせていただきたいと思っております。

人間文化研究機構 NIHU におきましては、このテーマについて大変感心を持っていたきまして、この度は、お二方の先生、田代先生を含めまして、NIHU のほうから、全てではありませんが、経費のうち多くの部分を負担いただいたということでもあります。

従いまして、研究会の成果等につきまして
は、何らかのかたちで成果をひろく外部に発信していければありがたいと思っております。

今日の予定を申しあげますと、11 時ごろから田代先生にご報告いただいて、その後、質疑応答をしていきたいと思います。その後田代先生のご報告をめぐって、若干の質疑応答をしたあと、午後から瞿先生のご報告をお聞きしたいと思っております。おおむね 1 時頃から予定しております。時間ですけれども、おひとかた 20、30 分程度、適宜弾力的に進めて参りたいと思っております。

午後から瞿先生のご報告の後、章先生のご報告をお聞かせいただきたいと思います。その後は私の報告をさせていただこうと思っております。引き続いて、総合討論の時間を設けたいと思います。

脚注*

- ¹ 愛知大学国際中国学研究センター所長・愛知
大学現代中国学部教授